

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173800491		
法人名	有限会社 静内ケアセンター		
事業所名	認知症高齢者グループホーム「ほほ笑いハウス」		
所在地	日高郡新ひだか町静内中野町2丁目12番6号		
自己評価作成日	平成23年3月6日	評価結果市町村受理日	平成23年5月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自分の家ではないけれど、いかに居心地の良い場所にできるか、に重点をおいています。それだけでなく遠慮しているのでそれを取り払う工夫をしています。具体的には職員が黒子になること、職員の言葉使い、対応に注意すること、利用者様から堂々と注文を言ってくれるようになる事。出来ることは断らない、嫌な顔をしない事、職員全員が希望をかなえるよう努力すること。そして、職員はチームワークが出来ないとこれらが出来ないことを肝に銘じること。ご家族からも、言いたことがたくさん言えるようになること。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0173800491&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0173800491&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年3月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

認知症高齢者グループホーム「ほほ笑いハウス」は自然豊かな住宅地に立地し、法人のデイサービス事業所や高齢者共同住宅の住居に隣接している。運営者は認知症をもつ高齢者が地域の中で自然に暮らす生活の場として当ホームを位置付けている。管理者と職員は法人の理念を基に事業所の目標を作り、利用者の自由な暮らしと安全面を重視し、基本的な生活支援を軸に目標を常に話し合いながらケアを深めている。運営推進会議での議題は充実しており、家族の参加も多く近隣の方も参加し有意義な意見交換の場となっている。避難訓練には近隣の方も参加し、事業所を緊急時の避難場所として提供したり、大きな行事には住民に参加を呼びかけるなどして地域との協力関係を作っている。管理者及び職員間のコミュニケーションは良く、利用者の生活を中心に業務の改善、入浴支援の工夫、排泄の自立支援など前向きな姿勢で取り組んでいる。増築している建物の両窓から自然が見渡せる明るい居間で利用者は自宅のように寛ぎ、食事には廊下を渡り食堂に移動できるように運動量も兼ねて工夫されている。利用者は家族のように自由な雰囲気の中で過ごしている。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝引継ぎ時に全勤務者で読み上げているが日々のことで形骸化し、本来の共有とはなっていない時があると思う。今一度この理念の意義や意味を再考してはどうか	法人理念を基に作成した介護理念を要所に掲示して意識化を図っている。職員は判断が難しい時やケアを行う中で、理念を意識して振り返っている。次回のミーティングの中で、理念を深める話し合いを予定している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お向かいや隣の方に運営推進会議に参加していただき、すぐ近くの人にはクリスマス会で演奏をしてもらったりしています。自治会の廃品回収等に参加したり夏のイベントにスタッフ同伴で利用者様も参加しています。	近隣の方に運営推進会議の参加をお願いしたり、事業所の行事には案内状を送るなどして住民との関係作りに努めている。ボランティアによる紙細工やお茶会などの訪問もある。利用者は小学生と事業所前で挨拶を交わしたり、職員の子供が遊びに来ることを楽しみにしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の回覧板を利用させていただきショートステイ、デイサービス、支援ハウス等を利用できるよう案内しています。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域住民や利用者様の家族にも参加して頂き現在の利用者の状況などを理解して頂いたり、意見をサービス向上に取り入れています。利用者様顔写真の配布も利用者様のご承諾を得て配布予定です。	昨年の2回は行事を議題にして法人の他グループホームと合同で運営推進会議を行っている。他の会議では運営やサービス評価の報告の他に、避難場所として事業所の提供、職員による事例報告、介護計画の家族意向アンケートの実施など、活発な意見交換の場となっている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ケアセンターの窓口で困難事例の利用者様の相談がよくあり、断ることなくケアセンター各部署のサービスを紹介しています。また社長として認知症サポーター養成講座の講師に招かれたりしています。	代表が事業所の窓口になり、町と連携を取っている。町担当者からの入居依頼や困難事例に対応している。介護保険の認定調査員や生活保護担当者の来訪時には情報を提供し、意見を交換している。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年度の自社研修なかで禁止の対象となる具体的な行為の確認をしたり4ヶ月に一度身体拘束委員会を開催し各事業所の拘束委員により取り組んでいる。	各事業所の職員で構成されている法人の身体拘束委員会が職員へのアンケートを基に作成した「10の禁句集」の内容をミーティングで確認している。馴れ合いから声かけの口調や抑制する言葉がないように接遇なども学び、拘束のないケアに取り組んでいる。日中は施錠をせず、センサーの音で出入りを見守っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	自社研修で勉強会を開いたり、拘束委員会でも確認し、虐待、拘束の事例はないか確認しあっている。		

認知症高齢者グループホーム「ほほ笑みハウス」

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、成年後見制度という言葉などは知っているが中身まで詳しく勉強会としてはしていないけれど、利用している利用者様が居るので利用しています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	基本的な理念を前もってお話したり、質問などをお聴きしています。とくに利用料金等の重要事項、契約書の中身など重要と思われることをお話し、十分に読む時間を持ってもらい契約させて頂いています。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	昨年の10月にご家族の意見要望をお聴きするための文書を送付し返送していただいた。また運営推進会議で外部者に報告したりしています。	家族とのコミュニケーションを大切にして、来訪時には職員からも報告し意見を聞くようにしている。介護計画作成時に意向を聞いているが、改めてアンケートで要望などを収集し、計画に反映させている。利用者、家族の意見にその都度対応しているが、記録の整備に不足な面も見られる。	家族の些細な思いも汲み取り、職員間で共有して意見をサービスに活かせるような記録の整備に期待したい。
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が一番働きやすい状況を作るよう努力したり、業務改革提案書で反映させています。もちろん会議でも聞く機会を設けています。	職員は各自の意見を提案書で出し合い、月に2回のミーティングで業務の改善などを話し合っている。決まったことは申し送りや連絡ノートで共有している。年に1回は個人面談を持ち、管理者は相談や希望を聞く中で働きやすい環境を作っている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に勤務態度などを見ながら適切と思われる環境、条件の整備と配置、また働きやすい労働時間の調整をしています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月2回の技術研修と年間研修計画をたてて内部研修をやっています。また日常のケアの中でもお互い相談しながら支援しています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北海道グループホーム協議会主催や日高ブロック研修会に参加しています。他ホームの職員の受け入れやセンター主催の勉強会に参加していただいたり、しています。他ホーム職員不足時に応援をしたりします。		

認知症高齢者グループホーム「ほほ笑みハウス」

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人様今までどんな生活をしてきたのかなどご家族に詳しく聞き、本人との係りを多くして安心安全に心がけホームの環境になじむよう努力しています。そしてご本人さまが一番なじみのあるものをお持ちいただいています。例えば犬を連れてきたり猫の写真など。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族に居室を自由に使っていただくよう説明します。そして初期ほど面会に来ていただくようお願いしています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人に対しての注意など細かく確認しながら対応し、ほとんどの場合、病院を退院しても住む所がない、ご家族の負担が多くなり対応できないなど、緊急性の高い方から入居して頂いています。また基本的な生活(入浴、排泄、食事)を重視しながら次のステップに進むよう勤めています。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活をするという視点で介護しています。日常的なことになるべく係りを持って頂くよう支援しています。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ここのホームはご家族と一緒に創っていきましょうと文書でご家族に伝えながら面会を多く促してみたり、外出も出来るときをお願いしたりしています。また毎月ご本人様の状態を詳しくお便りで伝えていきます。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行き付けの美容院、病院などにいったり合いたい人にも電話連絡し、本人様の報告とともに電話で話して頂いています。また知人が来たときは次も機会があれば訪問して頂ける様お願いし、住所、電話番号を記入して頂いています。	馴染みの美容室に職員が同行し、自宅周辺を見たい利用者とは一緒に出かけることもあった。知人の来訪時には茶菓子などを出して話しやすい環境を提供し、今後も継続できるように連絡先を聞いてお願いしている。電話でも会話ができるように機会を作って支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り危険なトラブルにならないよう努め、ボール遊び、百人一首、カラオケ等皆で楽しめる事を取り入れています。		

認知症高齢者グループホーム「ほほ笑みハウス」

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談に凝られる方がいる時は、いつでも応じるというのが、会社の方針なので、ご家族の親が続けて入居されています。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人から出来るだけ聞き取るようし、ご家族から裏づけをとり支援しています。ご本人の行きたい美容院、歯医者、外食などに行って頂いたり会いたい人にも電話連絡をし話して頂いたりしています。把握困難なときは、表情、動作、ご家族からの情報、ミーティングで話し合いをしています。	利用開始時にセンター方式のアセスメントで詳細に暮らしの情報を収集している。日常的な会話の中から意向を把握し、できるだけ対応している。意思表示が困難な場合は仕草や声かけの反応で思いを汲み取り、アセスメントに記録して介護計画に反映させている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員誰もが閲覧できるようにし、管理者は時々情報を再確認して職員に伝えるようにして、職員も時々確認するようになりしています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に体調に気を配り小さなことでも本人に確認したり、主治医と相談したり、どこまで本人が出来るか、すぐ手を出さずに見守りし、一つ一つゆっくりはつきり話しかけて支援しています。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当職員がモニタリング、見直しシートに記入し、生活援助計画を作成し、変化があるとそれに伴い、医療関係者と相談し全員で話し合い現状に即した計画に変え、介護支援専門員がチェックし作成しています。	新規の暫定介護計画は1ヶ月以内に見直して本プランとし、家族アンケートの意向も入れた介護計画書に同意を得ている。状態に変化がない場合は職員の記録も参考にして3ヶ月ごとにモニタリング表を基に見直し、内容を評価して更新計画を作成している。書類の整備を検討中である。	アセスメントも新しい情報を蓄積しながら、現在のモニタリングや会議録などの書類を分かりやすいように整備し、経過を把握できるような工夫に期待したい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はアセスメントに記録し、気づき、工夫など、利用者さん申し送りノートへ記録し情報の共有をしています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	支援ハウス、ディサービス、訪問介護、GHという多機能を使い交流も多く、家族や本人の希望に応じ医療機関等に行ってます。また、買い物や行事への送迎をしています。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には警察、消防の方々自治会の方や役場関係者、家族の方々に参加して頂いてます。また地域の高校生のインターンシップを受け入れています。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	つき2回往診に来て頂き、和気あいあいとした雰囲気の中利用者様も笑顔で受診されています。往診の前には事前に近況を報告し、24時間対応して頂いており、必要時には、直ちに看護師に連絡し訪問して頂いています。	月2回協力医の往診があり、他科受診時は職員が同行し主治医に情報を提供している。主治医の説明が必要な時は家族も受診に同行して方針を共有している。薬の変更や連絡が必要な時は家族に結果を報告し、定期受診の結果は来訪時やお便りで伝えている。	

認知症高齢者グループホーム「ほほ笑みハウス」

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調に変化があれば直ちに連絡し助言を仰いでいます。また精神科及び内科の医師により適切に対応して下さっております。主治医から必要時に専門医の受診の了解を頂いております。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ホームでの対応が何処まで出来るかを主治医と相談しながら決めています。ご家族とも連携し、医療、家族、ホームと連携しております。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療、家族、ホームとしっかりと状態に応じ、その都度相談し、支援しております。職員同士でもするべきこと、出来ることの範囲を再確認しながら支援しています。直接主治医とご家族との相談も交えながら進めています。	利用開始時に、医療連携体制及び終末期における看取り介護を文章で説明し同意を得ている。主治医の判断の下に終末ケアに関わる指定書の同意から看取りケアを実施し、職員は看取り後の家族の精神的な面にも配慮して対応している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年救急救命講習を実施して3年に一度受講しています。24時間係り付け医と連絡が取れるよう連携し、訪問して頂ける関係を作っています。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昨年11月地域の人に回覧で避難訓練の連絡をして参加できる人を募ったところ自治会長様やお向かいの方が参加し誘導のお手伝いを頂きました。また参加しないまでも興味をもって見学に来ていた方もいました。	消防署の立会いの下で日中と夜間を想定した火災避難訓練を実施し、夜間を想定した訓練には近隣の方も役割を持って参加している。また、夜間召集訓練を実際に行い、連絡網の確認も行っている。火災以外の災害について勉強会を行っているが訓練までには至っていない。	地震などの災害を想定し、職員間でシミュレーションを行ったり、備蓄品なども準備して災害に備えることも期待したい。
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	10の禁句を掲示し意識して接しています。自分立ったら自分の親だったらということを考え支援しています。トイレ中ポータブルトイレ使用中などタオルを掛けるなど配慮しています。	利用者の人格を尊重して呼び方は名前や苗字に「さん」付けを基本にしている。今後も「ちょっと待って！」などの10の禁句を研修で取り上げ、言葉かけに配慮していく意向である。面会簿は単票式に変更し、個人記録もイニシャル表示にしてプライバシーに配慮している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食べたい食事、散歩、外食、希望など意思を尊重しながら支援しています。自己決定のため必ず聴くよう働きかけています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先ではなく利用者様優先で食事、入浴、外出、排泄、極力本人の意思、ペースを重んじています。また意見が合わないときは相談しながら支援しています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	クリーム、髪染め、マニキュア、本人行き付けの美容院などいけるよう支援しています。また朝の髪結いも本人の望むように心がけています。		

認知症高齢者グループホーム「ほほ笑みハウス」

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好きなもの食べられないものを把握し希望を取り入れた献立を作り能力に応じて準備や後片付けに加わり職員とともに食事をしています。また個々に外食に言ったりします。間違っても急に止めたりしない。食べ方には注文をつけづきちんと食べているかに注意しています。	献立は食材に応じて利用者の希望なども取り入れながら、職員が作成して毎日記録している。今年度は1週間分を写真に撮り、記録した献立表で管理栄養士の指導を受けている。外食や年間行事などで食事が楽しめるように工夫している。利用者に応じて食材を切る、味見、下膳などを行い、職員と楽しく会話をしながら食事を共にしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	量的なものはチェックシートで調整し栄養面では町の栄養士に年一度チェックして頂いています。また体調を考えて増やしたり減らしたりとその都度支援しています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は磨き、義歯洗浄、週2回義歯の消毒を行い、歯科医の訪問診療を利用しています。就寝前の歯磨きは必ず磨き粉を使っています。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は紙パンツ、パッドの使用を控え、夜間は必要な人にパッド類を使用しています。したい時にトイレに行けるようにサインの確認、場所がわかるようにしたり、さり気ない声掛けに気を配り、出来ないところだけ支援しています。	排泄チェック表に記録してトイレ誘導を行うことで、日中は可能な限り布パンツで過ごせるように配慮している。現在殆どの利用者は日中布パンツで過ごしているが、夜間帯は覚醒状態の問題もあり、安全面に配慮してポータブルトイレやオムツ交換で対応している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンのチェック、活動、食事、水分、果物などの工夫し、最後に薬や、介助にて支援しています。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴嫌いな人には時間や介助人を変えたりしながら入浴していただいています。また入浴剤をいれたり、音楽を流したりしてリラックスしてもらっています。お湯の温度、湯船内の時間などに配慮して支援しています。また事故に最も注意して支援しています。	前回の外部評価を活かし、現在は利用者の希望に応じて午前から午後まで毎日入浴が可能になっている。身体状況に応じて2人介助を行い、週2回以上入浴できるように配慮している。夏季や入浴拒否がある時は足浴や清拭などで清潔保持に努めている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	低反発、辱そう予防マット、布団の重さ、湯たんぽの使用、湿度、室温に注意し、夜間は音の出ないシューズを使用したりして支援しています。また排泄介助は本人の状態に合わせて起きてもらったり横になったまま介助したり、定期訪室に関係なく介助しています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬注意表の確認したり、状態の変化で主治医に連絡したりして、量や種類形状を変更して頂きます。特に便秘については細かな指示を仰いで下ります。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し、たたみ、玄関掃除、百人一首、カラオケ、フーセンバレー、四季の行事のお出かけ、他ホームへの外出、外食、ドライブ、町の行事などの外出の支援をしています。		

認知症高齢者グループホーム「ほほ笑みハウス」

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>天気を感じる利用者が多いのでその日の希望で外にでたり(冬は車で外出)暖かい時期には毎日散歩に出かけ近所のひとと挨拶を交わしたり、庭を見たりしています。映画、季節の外出行事をしています。</p>	<p>冬季以外は車椅子の利用者も一緒に近隣を散歩したり、事業所前にテーブルと椅子を置いて日光浴や外気浴を楽しんでいる。本人の希望に応じて個別の買い物に出かけたり、年間を通してお花見や紅葉狩り、ドライブなどに出かけて四季が感じられるように工夫している。冬季はイルミネーションを楽しんだり、窓を開けて外気に触れる機会を作るように配慮している。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金が気になる人には財布、金額を確認してもらい、自分で持つか預かってもらうか決めて頂いています。自分で保管するときは、なくす場合もあるのでご家族に了解をして頂いて保管して頂いています。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>いつでも電話できるようにご家族に了解済みです。年賀状も書いて頂いています。訪問された方に出したりします。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>食堂、居間、喫煙室などに分かれており自由に行き来できるよう配慮しています。窓が広がっており外の景色が良くわかるようになっています。光の刺激が多いときはカーテンで配慮して湿度、温度もすぐ分かるようになっています。またトイレの中においていたバケツを取り除きました。</p>	<p>居間は大きな窓に囲まれており、窓から差し込む光や景色の移り変わりで身近に四季を感じることができる造りになっている。各利用者が落ち着いて過ごせるようにゆったりしたソファを配置したり、身体状況に応じて廊下やトイレなど随所に手すりを後付けするなど、利用者への細やかな配慮が感じられる。庭で犬を飼い、家庭的な温かさを感じさせている。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>食堂、居間の使い分けしたり、椅子を決め足り、食事の場所を決めたり、利用さんの状態に合わせています。</p>		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>仏壇、家族の写真、動物の写真、鏡台、整理ダンスなどを持ち込んでもらっています。また昔使っていた趣味のものも持ってきてもらえるならご家族にお話しています。</p>	<p>居室にはクローゼットと棚が造り付けられており、各利用者は馴染みの家具や身の回りの物を持ち込み、綺麗に整理して気持ち良く過ごせるように工夫している。ベッドは殆どが事業所で準備しており、家族や本人に可能な限り負担がかからないような配慮もなされている。本人の身体状況に合わせて居室の出入口などに手すりを設置するなど、安全面にも配慮がなされている。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>テーブルに穴を開けたり、時計、日めくり、カレンダーの配置、車椅子の高さの調整、椅子の高さの調整、必要時足台の配慮、風呂の滑り止めの配慮、入浴台の配慮、手すりの配慮、季節行事が分かるものの配慮、トイレ位置が分かるような配慮、居室が分かるような配慮など工夫しています。</p>		



## 目標達成計画

事業所名 グループホーム「ほほ笑みハウス」

作成日：平成 23年 4月 29日

市町村受理日：平成 23年 5月 9日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10 23 26 30	各項目について概ね書類等があり、それぞれ実践されているのですが、ばらばらになっており、ひとりの人の状態をすぐ把握できる状態になっていないので、それらの項目を連動させるような書類整理できているとわかりやすい。	各項目を一つのファイルしまとめる。それをスタッフ全員と共有し、そのファイルの利用方法を検討し各職員に理解してもらう。	各項目に見出しをつけ、7つにわけ一つのファイルにする。(済)その説明のためミーティングをもち各職員に理解してもらう。以後そのファイルに色々なことを記録していく。そのことで利用者一人一人の状態がわかるように、かつ支援の実践がわかるようにする。	4月実施済
2	4	ご家族すべてに結果を知られていないので出席できない家族の方にとって会議の結果を知るすべがない。知ってもらうことでもっとご家族の協力をよりいただけるかもしれません。	毎回の運営推進会議の結果をご報告する。そのためにご家族全員に結果を送付する。	3月の運営推進会議の報告を送付にてご家族全員に送付しました。	会議の結果を毎回送付済
3	35	災害対策の備蓄という部分で不備がある。	毛布(上着類)、水、薬、オムツ類を最低2日分の備蓄	オムツの備蓄済み。水の購入は品薄が解消されるまで待つ。毛布は声をかけている最中です。保管場所はホームの倉庫と他の自社ホームの倉庫の2箇所です。	7月
4	1	なれて理念に鈍感になり、利用者様にあわせた暮らしではなく職員の都合に合わせた暮らしになるおそれがあります。	ミーティングの場で時間を設ける。	1ヶ月に一度確認するため議題にのせる。考えあう。議事録を作る。	5月ミーティングから実施
5	10	利用者様、ご家族の声を聴く(努力(方法)が足りず運営に反映されていない。	記録簿をつくり、そのことを実践されているか検証する。その結果を記録する。	家族の言葉、利用者の言葉の意味を理解し支援につなげる。職員が必ずファイルに記録をする。家族訪問の際は必ず報告をして記録する。	5月実施
6	33	ターミナルケア、ターミナル後について反省会等をしていないため何が良くて何が悪かったかそして今後どうすればいいのかを検証し、家族の信頼を得られるようにしなければならない	終末期のケアの共有とその後の反省会をする	過去の事例を参考に検討会を実施する	8月実施

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。